

(一社) 千葉県建築士会女性委員会 活動レポート

DIG体験ワークショップ

「災害を知る・地域を知る・人を知る～いつきてもおかしくない大規模災害に備えて～」

日時：2017年3月18日（土）13:30-17:00 会場：千葉県建築士会館

(報告者：白田克雄・中村俊光・成松洋)

2013年の神奈川県建築士会女性委員会・防災委員会「HUG（避難所運営ゲーム）ワークショップ」に始まる活動が、神奈川と千葉の建築士会女性委員会で展開し、2016年には千葉で「CRG（クロスロードゲーム）体験セミナー」がスタート、今回千葉県建築士会女性委員会の熱心な提案に応じて「DIG体験ワークショップ」へもう一段のステップアップを目指すこととなった。

《これまでの活動の流れ》

2013年7月 神奈川「HUGワークショップ」 参加者39名 神奈川県建築会館（横浜市）

2014年6月 神奈川「HUGワークショップ」 参加者60名 横須賀市文化会館

(千葉・蕪理委員長・元木副支部長が参加、終了後千葉での協力要請があった。)

2015年1月 千葉「HUGワークショップ」 参加者50名 千葉県建築会館

2016年1月 千葉「CRG体験セミナー」 参加者48名 千葉県建築士会館

(神奈川から東防災部長、女性委員ほか、計4名が参加)



2017年3月 千葉「DIG体験ワークショップ」 参加者40名 千葉県建築士会館

(神奈川から茶谷女性委員会副委員長が参加)



セミナーシンボル:「いつも防災を考える樹」

1. DIG体験ワークショップの概要

《主催》 (一社) 千葉県建築士会女性委員会

自分たちの地域で、どんなことに注意が必要か、見落としていることがないかなどを考え、気づきの大切さを共有する、そんなセミナーを目指しました。



蕪理委員長・金光副委員長

《協力》 防災塾だるま 白田克雄（リーダー）

中村俊光（講師）

成松洋（ツール・レポート）

みなさんの熱意に応じて、参加者の『気づき』につながる、わかりやすく親しみやすいワークショップにしたいと努めました。



白田リーダー

《ワークショップの構成》

- (1) DIGの説明 (13:35-13:50 白田リーダー)
- (2) アイスブレイキング (13:50-14:05)
 - ①ファシリテーター(進行役)を決める
 - ②自己紹介
 - ③リーダー兼発表者・書記を決める
- (2) DIGの実践 (14:05-16:55 中村講師)
グループ発表・論議・講評



アイスブレイキング風景

2. DIG (Disaster Imagination Game)とは？(白田リーダー)

地図を使って自分たちの住むまちの防災対策を検討する訓練で：

- ・参加者が大きな地図を囲み、みんなで書き込みを加えながらワイワイと楽しく議論をしていきます。その中であなたは、あなたと家族が住む地域に起こるかもしれない災害を「見える化」し、より具体的なものとしてとらえることができます。
- ・DIGのポイントは霧困気作りと「健全な大ざっぱさ」
 - ・・・決まったルールはありません。
- ・想像力を高めて「もしも」に備える！
 - ・・・DIGの成果は『気づく(発見)』です。



※配布資料：「指定緊急避難場所と指定避難所」

3. ワークショップの内容と展開

《事前準備》

- (1) 対象地域の選定(協議・決定)
 - ・女性委員会の提案に沿って検討し、4地区(ブロック)を選定した。
(1班：君津・木更津 2班：千葉市 3班：船橋 4班：松戸・柏)
 - ・各地区の白地図(B1サイズ)とビニールシートを準備した。
- (2) 班の編成
 - ・参加者の住む地区も考慮して、4班に編成した。



《ワークショップの進行》

- (1) パワーポイントを使って、
 - 「各ステップの内容と検討のポイント」「想定地震と広域被害想定」
 - 「カラーペンを使って地図への書き込み」「各ステップのまとめ
 - 『別紙(グループ発表資料)』の作成」について解説。(中村講師)

※配布資料：「千葉建築士会女性委員会(DIG中村案)」



(2) 初級編

【ステップ1】 =自分たちの住むまちの防災力を理解する=

- ・地域の基本情報（地域の自然条件、まちの構造、施設など）を、地図上にカラーペンで色分けして書き込んでいった。

（例）海・河川＝青、鉄道＝黒、主要道路＝茶、狭隘道路＝ピンク、避難場所＝緑、官公署＝赤、医療機関＝緑、公共施設＝青、危険な施設＝黄、ビル・マンション＝紫、など。

- ・地域の防災力に関連する情報を「見える化」
- ・①地域の長所（強さ） ②地域の短所（弱さ） ③地域に求められることを論議し、整理して「別紙（グループ別発表資料）」にまとめた。



(3) 中級編・応用編（前半）

【ステップ2】 =自分たちの住むまちに襲いかかる外力を理解し、想定されるまちの被害を検討する=

- ・【ステップ1】で基本情報が「見える化」された地図に重ねたビニールシートの上に、それぞれの地域で想定される被害をカラーペンで色分けして書き込んでいった。

（例）火災＝赤、建物＝オレンジ、がけ崩れ＝茶、液状化＝青 など

- ・その他想定される被害及び事柄を抽出、「どこで」「どのようなことが」起こり得るか、想定できる限り洗い出し、付箋紙で地図に貼った。



- ・千葉市中央部が直下型地震に襲われ、広域で甚大な被害が発生したとの想定で、参加者が住むまちでどのような被害が発生するかを検討して地図上に「見える化」した。
- ・安全な避難場所・避難ルートが確保できるか、どのような問題があるかを論議し、「見える化」して共有した。

（例）避難場所の位置、危険施設の存在、避難ルート上の渋滞や道路損害、行政機能停止、要援護者、帰宅困難者。



休憩（14:55-15:10）



お茶とお菓子でリフレッシュ、前半を終え話がはずむ。

「見える化」された地域の被害想定を前に、リラックスして意見交換、後半に向けてグループの一体感と集中力が更に充実した。

(4) 中級編・応用編（後半）

【ステップ3】＝地域で起こり得る被害への対策を検討する＝

- ・住宅密集地域での火災被害、建物や構造物の倒壊、狭い道路、深刻な社会インフラの被害などの困難な状況がある中で、どのようにして安全な避難場所へのルートを確認するかを論議
- ・「地域の防災や災害救援についてのプラス要素・マイナス要素」を整理して、「別紙（グループ別発表資料）」にまとめた。



「別紙（グループ別発表資料）」の作成

完成した「別紙（グループ別発表資料）」の例

(5) 評価・検証 （グループ発表・討論・講評）

【ステップ4】＝訓練を通じての「気づき（発見）」を共有する＝

- ・出来上がった地図と「別紙（グループ別発表用資料）」を使って、各グループのリーダーが「地域の防災力の長所（強み）と短所（弱み）」「地域で起こり得る被害への対策」「今後の課題」を発表し、各地域の特徴が浮き彫りとなった。
- ・講師や参加者も加わって論議することで、さまざまな「気づき」が共有された。



グループリーダーの発表



講師によるコメント



参加者からの講評

《閉会あいさつ》



千葉県建築士会積田理事より

閉会あいさつ

「『気づき』を大切に、今後の活動に活かしていきたい。」



ワークショップを終えて 晴れ晴れと！



4. 中村講師まとめ ～ ワークショップを終えて ～

今回のワークショップの成果は、なんといっても地図の選択が素晴らしかった事です。準備して頂いた皆さんの功績です。拍手！！拍手！！

一方、反省すべきは、「発表・講評の時間をもっと取れていたら」です。

あんなに素晴らしい地図が出来上がり、「講評点」も「共有点」も「気づき」も一杯ありました。時間に制約がありスルーせざるを得なかった点は進行しながら「もったいない！！」でした。地域の地図作りがDIGの目的ではありませんが、白紙の地図に色分け・色付けをすることで、一目で地域の「強み」「弱み」が見え、何をしなければならぬかを気づかせる手段になりました。皆さんから出た意見やアイデアを、その後の活動に活かして頂ければ幸いです。

また、懇親会も楽しかったです。いつもながらのご配慮ありがとうございました。

5. 白田リーダー所感

2015年【HUG】、2016年【クロスロード】、2017年【DIG】と3年連続で千葉県建築士会女性委員会においてワークショップを開催してきました。

顧みれば、神奈川県建築士会女性委員会からの声掛けでスタートしたワークショップがきっかけで、いろいろな人との出会いがあり、様々な形の防災シミュレーションゲームをしてきたことは、我々お手伝いをしながら勉強にもなり、「やって良かった」という参加者を含め両方に成果があったと思います。

今回のDIGについては、初めは準備の段階から手探りな状態でしたが、我々3人とも知恵を絞ったことが、参加者の皆さん方に良い印象を与えるためにとの思いが伝わったと自負しております。

また、千葉県建築士会女性委員会の役員の方々に、予め設定した範囲（縮尺・半径・距離など）の難しい白地図作りを始め、準備をしてくれたこと、そして「おもてなし」を受けたことがもっとも嬉しく感じたことでした。

講評でも述べましたが、①防災クイズが配布資料に繰り入れてあった。②作成した地図を再活用する方策。③知らないより、知っていたほうがいいよねと住んでいる地域を知る（危険場所、公的施設、人口数、住宅数、避難ルートの確認など）④傾向と対策の話し合いが大事。⑤災害図上訓練⇒まち歩きで確認・検討＝現場を見る。⑥自助・共助・公助は7：2：1の割合。⑦災害対応は時間との闘い。⑧今回のキーワードも「気づく、じゃーどうする」というような感想でした。

今回の反省については、参加者の発表、講評など積極的な発言が多少あったが、その辺をさらに充実させるために、今後はタイムスケジュール的に十分な時間を取ることが必要だったと感じられました。

例えば「DIG」を実施する場合はそのことを考慮すれば、1日で終わらせるという考えに立った場合、午前11時頃から開始し、地図に基本情報を書き込み、食事時間（弁当持参？）を挟んで午後から再開したら上記の時間が取れるのではないかと思います。

いずれにしてもキーポイントは参加者自身が住んでいる手作りの地図（大きさは用途によって異なる）を用意することによって、話し合いやワークショップの展開などが充実するのではないかと強く感じました。

以上。

平成29年3月23日

防災塾・だるま

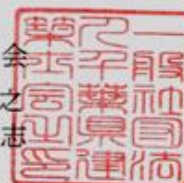
理事

白田克雄 様
中村俊光 様
成松 洋 様

一般社団法人 千葉県建築士会

会長 圓崎直之

女性委員会委員長 蘆理美登志



謹啓

時下ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、去る3月18日開催いたしました「DIG」体験ワークショップに際しまして、公務御多端の折りにもかかわらず、長時間にわたり、御協力を賜り誠にありがとうございました。

当日は、地図上に地域の自然・建物・施設等を書き込むことで地域の特性を知り、起こり得る被害を書き込み、対策を検討するなかで、先生方の適切な御指導をいただき新たな発見をすることができました。

今年で3回目となる図上での災害訓練では、事前の危険予測・避難経路等の確認など地域防災を考えるうえで大切な多くの教えを賜りましたことお礼申し上げます。

お陰をもちまして盛会裏に終了させていただくことができましたこと、深く感謝申し上げます。

なお、当日は何かと不行き届きの点が多くありましたことお詫び申し上げます。

今後とも何とぞ御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略儀ながら書中をもってお礼申し上げます。

謹白